

日本で一番小さい県において地域づくり団体全国研修交流会が開催されました。私は倉吉市第2分科会「村おこしコース」に参加しました。目的は、人集めの難しさを解決する秘訣を知るためです。今回の研修地である高城地区及び小泉地区は山間地帯の大変厳しい環境の中にあります。

高城地区においては、その厳しい環境の中、青少年育成協議会を中心に、地区の皆様の大変なご苦勞のもと「高城だっしゅ村」を立ち上げ、現在も「高城だっしゅ村」通信を毎月発行するなど、活発に活



動されており、大変驚きました。

また、小泉地区の活動も立派でした。わずか10世帯の方々が「清流遊 YOU 村」の運営を通して、自然の恵みを生かし、都心の人たちを観光客として限界集落に呼び込む試みに感服しました。その他にも、溪流を生かしたマスの養殖・溪流釣り・つかみどりや、バーベキューを通じた子どもと大人の交流会等で、地域の活性化に取り組んでおられ、良い刺激になりました。

私のモットーは、思いついたら即実行・行動することなので、私も地域を見直し、団塊世代の方々との話し合いを持ちながら地域の良いところを見つけ、長い人生経験で得た知識と知恵を存分に生かしてもらい、地域づくりに参加してもらえよう呼びかけていこうと考えています。本研修交流会では台風17号の接近という思いがけない事態に遭い、スタッフの皆様には心配をおかけしましたが、無事帰宅できました。本当にありがとうございました。

全体会は地元小学生達の「打吹童子ばやし」ではじまり、主催者あいさつ、郷土芸能「しゃんしゃん傘踊り」、全体研修会トークセッション「最初は小粒でも大きく育つ地域力」とつづき、最後に次回開催県である福井県のあいさつで終了した。

昼食後は参加者25名と地元の行政・NPO・ボランティアが、用意されたバスに乗り込み、倉吉市村おこしコース「しんわりたんわり田舎流！」へ出発した。

高城地区は山間部の交通が大変不便な地域で、NPO法人の会員各自が高齢者を病院などに送迎する(1日500円)取り組みを行っている。「高城だっしゅ村」では、子供たちのキャンプや水遊びの基地になるよう、行政も参加して、ボランティアで手作

りの山小屋を作り、活動していると、村長さんから説明があった。そこでは全員でスズメバチ入りのおにぎりをごちそうになった。また、「清流遊 YOU 村」ではつり堀・ホテルの里・ワサビ園・沢の水による発電装置を見学した。つづいて山間部をバスで移動して訪れた関金地区「浅井味緑の里」では、地元の



材料を使って多くの食材を作っているという事例の説明があり、その後「道の駅(おおぼさり)」での休憩をはさみ、「水車の郷」でそば打ち体験をして、最後に「やまもりの丘キャンプ場」で農業用水路を利用したゴムボートで用水路下りを体験した。

夕食は地元の方々が用意してくれたスペシャルメニューで参加者と地元の人達が交流をし、大変盛り

上がった。

村おこしコースでは、予想していなかった沢山の体験をした。地域の特色を生かした活動とものづくりで地域の活性化を図っていること、そして何よりも地域全体が1つにまとまり、行政も加わり素晴らしい活動を展開していることに対し、大きな感動を受けた。

全体会のトークセッションでは、「子どもたちが好きなまち、進学や就職で出て行っても帰ってきたくなる故郷づくり」を目指し、子どもたちとの交流の場づくりを行っている事例の発表があった。また、「高齢者・障がい者・子どもたちが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくり」として、福祉とまちづくり関係者が一体となって行っている訪問看護ステーションの開設や障がい者と家族の仕事場づくりを目的としたカフェの開設などの事例が紹介された。こうした事例は、各地で求められている課題解決の方策の具体例として参考になった。

分科会は倉吉市の「村おこしコース」に参加した。現地は全て谷田沿いの地区で、5ヶ所の視察先は谷を入れて戻るの繰り返しであった。

「高城だっしゅ村」は、大人と子どもが協力して建てた小屋の名称である。今までの子育て活動は、大人がお膳立てして子どもはお客様として楽しむだけであった。しかし、大人と子どもと一緒に活動す

ることにより、連帯感・達成感などの感動を共有することができる。この場所を拠点に、生活の知恵を体験して受け継いでいくことは、故郷への思いを大きく育むことに繋がると感じた。「清流遊 YOU 村」は、溪流・わさび田・ホテルを生かし、フィッシングセンターを中心に釣場やバーベキューハウスを整え、年間を通して、魚の掴み取りやホテル祭りなどのイベントを実施し、集客に努めていた。

「浅井もちっく倶楽部」では、農産物加工センターを建設し、地元農産物に付加価値をつけ、道の駅で販売しており、大山の名水を生かした豆腐やおから団子が好評とのことだった。「水車の郷体験工房」では、そばを自分で打って食べることが魅力で、客も多く、併設した水車による発電装置も今日的話題なので、興味を引くという。「やまもりの丘キャンプ場」では、竹細工や竹林整備、ピザ焼き体験、用水路をゴムボートで下る～ざんぶらっこ体験～などユニークな取り組みが行われており、四季を通じ集客に努めていた。

以上の5地区は、同じ山里でありながらそれぞれの立地条件を活かし、地域の活性化に取り組んでいた。共通点は、補助事業を積極的に導入し地域の条件に合った施設をつくり、そこを拠点に活動を展開していることである。また、単なる観光ではなく五感で楽しむ「体験型」で交流人口の増加を志向しているという点も共通していた。山里の多い本県でも、参考となる事例の多い研修であった。

